



特集 **ソーシャルメディアを活用した情報発信**

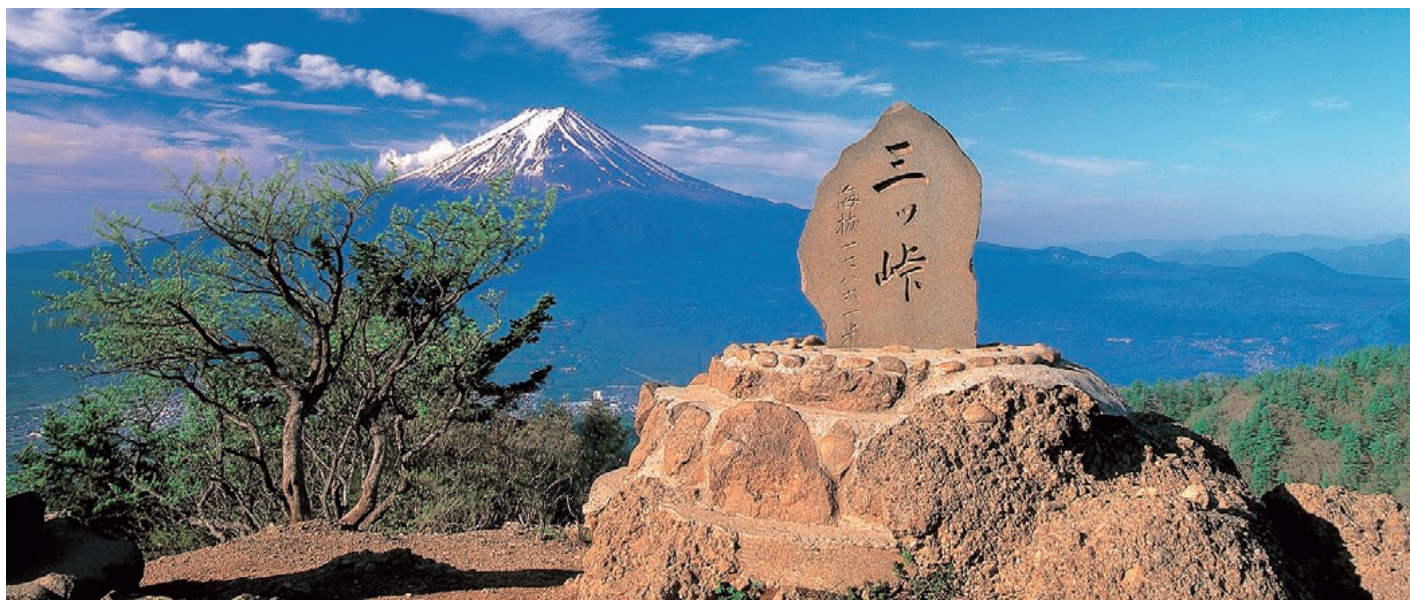
やまなし

自治の風

Yamanashi JICHI no KAZE
Vol.54 September.2023

contents

市町村長リレー
苦言提言
地域シンクタンク
市町村の元気印
地域おこし協力隊の活動



machijim^{an}

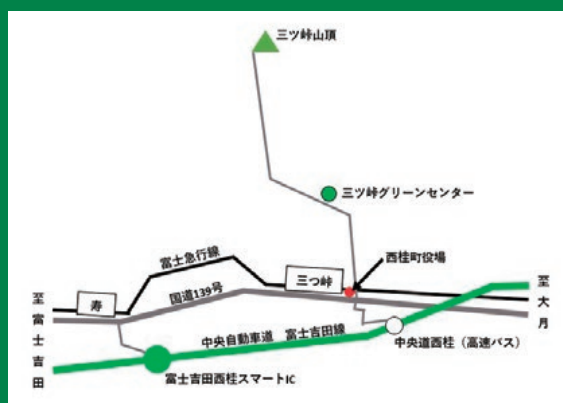
お問い合わせ先

西桂町建設産業課 商工観光係

住所 山梨県南都留郡西桂町小沼1501-1

電話 0555-25-2121

HPアドレス <https://www.town.nishikatsura.yamanashi.jp>



シリーズ
ま・ち・自・慢

Nishikatsura-Town

西桂町

信仰の山 三ツ峠

西桂町は、山梨県南東部、富士北麓の富士吉田市と都留市の間に位置し、その面積の80%近くを山林が占める山間の町です。生活圏は町を東西に横断する桂川兩岸に集中し、中央自動車道及び国道139号線、富士急行線が通るため首都圏や甲府盆地からのアクセスも良好です。

町北部、町全体の大部分を占めているのが、日本二百名山・山梨百名山の一つに数えられる「三ツ峠山」です。古く奈良時代から修験道の霊山として知られ、江戸時代に空胎上人によって開山された信仰の山です。現在では山頂直下にある「屏風岩」が日本有数のロッククライミングの名所として知られています。また、希少なアツモリソウをはじめ、多種多様な高山植物による植生がみられるという魅力もあります。

登山道の各所では富士山の姿を見ることができ、山頂からは富士山、南アルプスから御坂山地、八ヶ岳まで360度の大パノラマが広がります。

豊かな自然と壮大な眺望に恵まれた三ツ峠山に是非登ってみてはいかがでしょうか。

やまなし

自治の風

Yamanashi JICHI no KAZE

Vol.54 September.2023

Contents

Yamanashi JICHI no KAZE Vol.54 September.2023

- まち自慢 西桂町
- 02 市町村長リレー 南アルプス市
南部町
- 06 苦言提言 都会からの移住と地域創生活動：山梨県・大月市の魅力と未来への架け橋
株式会社 Localabilities 代表取締役 範馬 冴存
- 07 特集「ソーシャルメディアを活用した情報発信」
- 08 特集1 「伝える広報」から「伝わる広報」へ
- 12 特集2 ソーシャルメディアを活用した情報発信とその取組
- 15 特集3 情報発信の充実に向けた本市の取組み
- 18 地域シンクタンク
- 20 市町村の元気印
- 22 地域おこし協力隊の活動
- 24 自治 Q & A
- 28 やまなし市町村東京サポートセンターの開設について
- 30 多文化共生社会の実現に向けて
- 32 がんばっていま～す。
- 34 はつらつ!!市町村職員
- 36 市町村振興協会たより
時の人
編集後記



表紙写真
「甲州いろは坂の紅葉」

本栖湖に続く国道300号の本栖みち
「甲州いろは坂」は、秋になると鮮やかな
紅葉に彩られ、観光やドライブなどで訪
れる人々を楽しませます。
甲州いろは坂の途中にある展望台から
は、山梨、静岡、長野の三県にまたがる
南アルプスの山々を望むことができます。
【身延町提供】

市町村長リレー

南アルプス市

Mayors of municipalities relay

「南アルプス市を更に前進させ

未来を拓く」ために

「三本の政策の柱について」

金丸 一元 南アルプス市長

平成15年に六町村が合併し、誕生した南アルプス市は、今年20年の節目を迎えました。この節目の年に、本年4月より三期目の市政を担うこととなりました。

本市を取り巻く環境は、大きな変化の時を迎えており、市の将来を方向付けるうえで、最も重要な時期だと感じています。南アルプス市の未来を切り拓くため、3つの政策を「三本の柱」として位置付け、施策を展開していきます。

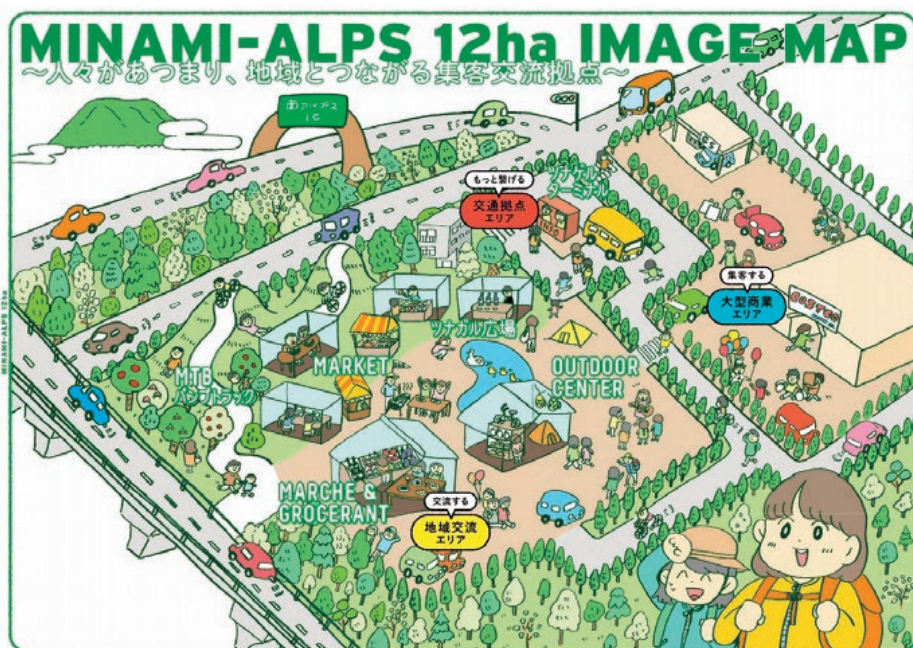
未来をつくる産業振興

本市にとって、長年の最重要課題でありました完熟農園跡地活用については、大型集客施設である「コストコ南アルプス倉庫店」と、地域の魅力を発信する地域交流施設「ヒカレヤマナシ」の誘致が決まり、「賑わいと活力のある集客交流拠点」として、来年の開業に向けて、準備を進めているところです。また、今後は同敷地内に交通のハブ拠点の整備も進めていく予定です。この集客交流拠点の整備を、本市発展の

起爆剤とすべく、南アルプスIC周辺エリアの用地についても、親和性を持った土地の高度活用を念頭に、検討を進めていきます。

また、集客交流拠点の整備に伴い、県内外から多くの方が、本市を訪れることになりますので、フルーツ観光・山岳観光と結びつけ、観光産業の発展に波及させる施策を展開させるとともに、「南アルプスユネスコエコパーク」に登録されている、本市の豊かな自然環境を学び楽しめるよう、伊奈ヶ湖周辺の整備も進め、インバウンド観光にも力を入れていきます。

これまで、株式会社コーセーをはじめとする優良企業の誘致に積極的に取り組んできました。本市の高い交通便利性と、今後のリニア中央新幹線整備を控え、企業進出意欲は益々高まることが想定されますので、更なる優良企業の誘致を進めます。



来年度オープンが予定されている集客交流拠点



金丸 一元 (南アルプス市長)

PROFILE 昭和24年4月3日生まれ(74歳)
昭和49年 3月 立教大学卒業
平成16年11月 南アルプス市議会議員就任
平成27年 4月 南アルプス市長就任
令和 4年 6月 市長会長就任
令和 5年 4月 南アルプス市長(3期目)

集客交流拠点の整備による賑わいの創出を観光産業に波及させ、交流人口の増加を促し、企業誘致による産業の振興を力強く推し進め、雇用の創出を図ります。

希望をかなえる子育て応援

今年の3月に「こども・子育て応援都市」を「南アルプス市ファミリーフェスタ」において宣言しました。「宣言」は子育てに携わる関係者の意見や想いが集約され、地域全体で力を合わせて未来の宝である子どもたちを応援する内容となっています。

岸田首相が「異次元の少子化対策」を掲げる中、本市においては18歳までの子ども医療費の無償化、放課後児童クラブの整備充実、保育料の完全無償化、公立小中学校の給食費無償化を実現するなど、国の政策に先行し、積極的な少子化対策・子育て支援を展開してきました。今後も、少子化対策・子育て支援を、更に深化さ



せていきます。

子育てを応援する上で、安心して子どもを預けることができる保育環境の整備は非常に重要であり、全国的に問題となっている保育人材不足への対応は本市にとっても喫緊の課題であることから、保育士の待遇改善、現場の負担軽減に繋がるICT導入についても取り組めます。

子どもを持ちたいと希望する若い世代の方々が、南アルプス市に住んでいれば、安心して子どもを産み育てることができると考えるよう、取り組みを更に推進し、移住・定住に結び付けます。

魅力あふれる地域整備

中部横断自動車道の南部区間の全線開通により、静岡県をはじめ中部圏からの人の流れが増加しています。また、整備が予定されているリニア中央新幹線の新山梨駅は、本市から新山梨環状道路を利用することで、数分の場所に位置していることから、リニア中央新幹線の開通には大きな期待を寄せているところです。これらのインフラ整備と連動した地域整備を進め、魅力ある地域の形成を図ります。

安心安全な住環境を確保するうえで、交通インフラの整備は重要であることから、渋滞対策にも力を入れ、都市機能の更なる向上や防災機能面での機能強化にも取り組んでいます。

また、近年、住宅の開発件数が増加していることから、課題となっている空き家対策を含めて住宅政策にも力を注いでいきます。

南アルプスの未来に向けて

本市は令和3年度末・令和4年度末の住民基本台帳人口において、2年連続で人口が増加していることが示すように、未来に向けて大きな可能性を有した地域です。

先に述べた三本の柱の政策を、推し進めることで生み出される「産業振興による雇用創出」、「子育て応援による移住・定住」、「地域整備による都市機能の強化」といった効果を互いに好循環させることで、本市が持つ高いポテンシャルを最大限に引き出し、南アルプス市の未来を切り拓いていくよう取り組んでいます。



中部横断自動車と新山梨環状道路が交差する南アルプスIC周辺

市町村長リレー

南部町

Mayors of municipalities relay

魅力あふれる ふるさと

「一流の田舎町」をつくりまします

佐野 和広

南部町長

「お年寄りに暖かい風を、子供達には優しい風を」を基本理念として、これから先も持続可能な町であり続けるために、常に時代の変化に対応できる多様性（diversity）と共創（co-creation）を意識しながら地に足のついた施策を推し進めていきます。

立地 リッチな

「一流の田舎町」南部町



道の駅とみざわの
巨大な「たけのこ monumento」

中部横断自動車道の開通や静岡県富士市に完成する「富士川かりがね橋」の供用開始は、町民の皆様にとって、渋滞による通勤時のストレス緩和や買い物、余暇を楽しむ

むための移動時間短縮など、「住みやすさ」を実感できる立地条件を満たすために重要な道路であります。また、防災道路としての観点からも富士宮市や御殿場市につながる道路整備等、本町を取り巻く交通網の強化を図り、さらには東京、愛知、長野方面からの人道の拠点を目指しながら、今後も広域的な道路網整備の推進を促すために関係機関と連携をとっていきます。

「一流の田舎町」にふさわしい

自然環境と充実施設

本町の観光資源は、大自然を基盤とした山と川であります。山梨百名山に選定されている山々と、富士川に流れ入る戸栗川や富士川は、豊富な水量とその清流によりトレッキングやキャンプ、溪流釣りなどで訪れる方々を楽しませてくれます。特に富士川渓谷には、「清流富士川ライン」としてサイクリングロードを整備し、「奥山温泉」や「山水徳間の里」等の公共施設と民間キャンプ場等とを結びつけ、四季に応じた山々



広々爽快「アルカディア多目的広場」



佐野 和広（南部町長）

PROFILE 昭和27年4月3日生まれ（71歳）
青山学院大学経済学部卒
平成23年4月24日 南部町長初当選
令和 元年6月 町村会長に就任
令和 元年7月 関東町村会長就任
令和 5年4月26日 南部町長（連続4期目）



開放的に一日楽しむ「アルカディアフェスタ」

の彩りを楽しめる、賑わいを創出するエリアとして整備を促進しています。

また、「アルカディア南部総合公園」内には、文化の拠点として本町出身の水墨画家「近藤浩一路記念南部町立美術館」を整備、併設された「図書館」には、約9万冊の蔵書と人気絵本作家「宮西達也」名誉館長のジオラマ等の展示を開始しました。スポーツの拠点としては、体育館、ジム、温水プール、野球場、テニスコート等を完備したスポーツセンターを整備、昨年6月には新たに天然芝12,000㎡の広さを誇る多目的広場を完成させ、遊具エリア、遊歩道（一周500m）、短距離用タータンレーン等を併せて整備（総面積約30,000㎡）する等、スポーツと文化

の融合施設「健康と快活、知識と芸術の理想郷」を目指して、更なる施設の充実を図っていきます。

今後も充実した施設と恵まれた自然環境を活かして、県内外の大勢の方々が笑顔溢れる交流を図れるよう、多数のイベントを企画開催し、誘客を促進していきます。

南部町にしかない

「一流の田舎町」を目指して

一流の田舎町とは、大自然の中で生活する町民の皆様が、都会以上の行政サービスが受けられ、心身共に健やかで、鳥のさえずりや川のせせらぎ、そして子供たちの笑い声を聞きながら「ゆっくり、ゆった



町の宝もの『高いたか〜い』『母親学級』

り、のんびり」と「安心した生活」をおくることができるが約束された町であると考えています。

その実現のために「子育て世代の定住を促す住宅施策」、「時代に合った廃校の有効活用」や「公共施設のスリム化」等、未来へ向け力を蓄える事業を堅実に展開しながら、一方で、お年寄りや子供達に、優しく寄り添った事業を大胆に展開していきます。

これからも、「笑顔のおもてなし」を職員に徹底教育し、「町総合計画」等に基づいて、農林業への新たなアプローチ、災害への備え、福祉の充実・維持、教育環境の充実はもちろん子育て世帯への支援には、有効な施策を積極的に実施していきます。特に、子供達への投資と町全体のDX化は急務と考えていますので、事業推進を加速させます。

おわりに

行政が、地域が、町民の皆様をよりきめ細やかに見守っていく社会づくり。町民の皆様が、自らの生活環境を都会の方々に誇れる町づくり。

その実現のために斬新かつ思い切った施策を実施していますし、これからもその気持ちは揺るぎありません。

皆様からお寄せいただいた信頼と期待にお応えするため、3期12年に渡り積み重ねてきた実績と明確な時代認識を活かし、町民が主役の「一流の田舎町」を進化させ、南部町の更なる高みを目指して、全力で町政運営に取り組んでいきます。

都会からの移住と地域創生活動・山梨県・大月市の魅力と未来への架け橋

私 は群馬県出身で、東京でデザイナーとしての仕事に携わってき

ました。しかし、コロナの影響を受け、新たな生活の選択を迫られ、山梨県の大月市へ移住することになりました。現代社会において、テクノロジーの進化や情報の急速な伝播によって、都会の喧騒と都市生活に疲れた人々が、新たな暮らし方を模索する姿が見受けられます。そんな中、山梨県の大月市は、自然に囲まれた静かな場所として多くの人々を魅了しています。私のように、都会からの移住者も多く、その中から様々な活動が生まれ、地域全体の魅力をより一層引き立てています。この豊かな自然と人々の温かさを感じる中で、大月市や山梨県の素晴らしさを広く知ってもらいたいという思いが芽生え、地域創生活動に力を注ぎ始めました。

大月市には広大な自然が広がっています。そこでの生活は都会とは異なり、穏やかで豊かなものです。ここでの暮らしは、穏やかな自然と地域の人々の温かさに触れ、新たな価値観を見つける素晴らしい機会となりました。この美しい自然環境を大切に、地域住民とともに、自然の保護や地域資源の活用を考え、地域の持続可能な発展に貢献していきたいと考えております。

この持続可能な発展の一つとして、

苦言 提言

Kugen Teigen

範馬 冴存

Saori Hanma

株式会社 Localabilities
代表取締役



大月市を代表する観光地の一つである「猿橋」の目の前にて約300年以上の歴史を持ち、コロナ以降閉店してしまっていた『大黒屋』の2階を改装し、コワーキングスペースのように仕事ができ、ランチをしたりカフェとしても利用できるワークカフェをオープンいたしました。人の集まる場所を作り、シーズン問わず観光地に活気が生まれるような取り組みを推進しております。

そしてその取り組みの一環として「地方リンク」という交流イベントを、山梨県を代表するインフルエンサーの方と協力して各市町村で開催しております。このイベントは、地方同士を結びつけ、新たな人との出会いやアイデア交換の場を提供するものです。地域の魅力を広めるだけでなく、地域間の連携を促進し、新たな価値を生み出すプラットフォームとして成果を上げています。

また、私たちはクリエイターやフリーランスへのレクチャーを通じて、地域のスキル向上と副業の促進を行っています。地方での就業機会を拡充し、地域経済の活性化に寄与する取り組みです。スキルの高いクリエイターや学生と企業のマッチングも進め、地域内の人材活用を推進しています。

行政との連携も重要な一環です。行

政と民間が連携し、共に地域の発展に取り組むことで、より大きな成果を生み出せると信じています。行政は様々なプロセスを経て動く必要がありますが、民間は迅速な行動が可能です。この異なる特性を融合させ、新たな取り組みを生み出すことで、地域の可能性を広げていくことができます。行政と民間が協力し、地域全体の発展を目指す姿勢が、地域の未来だけでなく日本や世界の未来を明るく照らしています。

私たちは民間での実績を築き、その成功を行政に繋げていきたいと考えております。柔軟なアプローチで新しいアイデアを取り入れ、地域の魅力を引き出し、次世代に繋げていくための架け橋として活動しております。山梨県における地域創生は、民間の行動力と行政のサポートが結集して生まれたものであり、多くの人々の協力と連携を通じて築かれます。それにより、地域全体の魅力が輝きを増し、新しい出会いや仕事が生まれる場として成長してきております。地域としての誇りを持ち、柔軟なアイデアを取り入れながら、民間、企業、行政+フリーランスが未来への新しい可能性を切り拓いていく。これこそが、都会から移住した私たちの想いです。